

# 会 議 録

## 1 会議名

令和3年度第6回谷浜・桑取区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【報告事項】

- ・地域協議会会長会議について（公開）

### 【協議事項】

- ・地域協議会だよりの掲載内容について（公開）
- ・自主的審議事項について（公開）

## 3 開催日時

令和4年1月20日（木）午後6時30分から午後7時48分

## 4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 坪田 剛（会長）、金森幸雄（副会長）、齊藤徳夫、佐藤寿美子、  
佐藤峰生、田村 隆、平野コトミ、水嶋豊秋（欠席者4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

## 8 発言の内容

### 【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：金森副会長に依頼

議題【報告事項】地域協議会会長会議について、事務局へ説明を求める。

#### 【中村センター長】

- ・資料No.1『「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた各地域協議会における今後の取組の検討結果一覧」に基づき説明

その後の質疑では、「意見交換」の項目として、金谷区と大島区に記載されている出張協議会についての質問があった。比較的広い区において、会場を変更して開催し、場合によって意見交換も実施するものである。両区ともコロナ禍でストップしているとの説明があった。また、「会議運営」の項目では、高田区と板倉区で設置している分科会についての質問があった。高田区では、昨年9月から「地域活性化」と「災害対応」に関する2つの分科会を設置しているとのことであった。板倉区では、3つの分科会を設置しているが、コロナ禍で開催できなかったと報告があった。また、「情報発信」では、三郷区に記載されているSNSの利用に関して、「市の検討課題となっているが、考えについて」の質問があり、自治・地域振興課で「担当部署とも相談しながら検討していきたい」とのことであった。

- ・「令和3年度地域協議会会長会議（1月6日開催）における市からの説明事項の概要等」に基づき説明

質疑の中では、「地域活動支援事業では、無駄遣いと言える部分もあった」という理解を示す意見があった一方で、「地域で事情が違う」「委員で議論する時間がない」など、市の提案が急だという意見もあった。出席いただいた坪田会長から補足があればお願いしたい。

- ・「地域活動支援事業（令和4年度）の実施に関する考え方について（案）」に基づき説明

地域活動支援事業の令和4年度の審査については、市で行うか、谷浜・桑取区地域協議会で行う意向があるかを、この会議の中で確認をお願いしたい。

#### 【坪田会長】

市長もまだ就任してから数か月で、なかなか自分の思いどおりに動かすことは難しいかと思う。当日の意見、内容については市長の立場で考えを示されたと思うが、できれば、より具体的なものがあれば、わかりやすかったのではないかという感想を抱いている。それから、新聞を読んだ方はわかるかと思うが、残念ながら会議時間が45分間であり、そこが、出席された皆さんが引っかかっている部分なのだと思う。市長のお話

だけで、市長との意見交換が十分になされなかったのは、少し残念だった。それが、私の印象として強い部分である。以降に予定があるということで退席をされたとのことで、また今後もこのような会議の場で話を進められれば、ありがたいと思いながら、後ろ髪を引かれながら戻ってきた。

#### 【中村センター長】

1月22日に、地域協議会会長と市議会の総務常任委員会委員との意見交換が開催される案内があり、坪田会長から出席していただく予定だったが延期となった。延期後の日程は未定だが、地域協議会の課題、地域活動支援事業の課題、地域自治区制度のあり方の課題について、事前に地域協議会委員が集まる機会があれば、検討していただきたいということなので、本来、別の議題で協議することであるが、会長会議の報告と関連する部分もあるため、この3点についても、あわせてご意見があれば発言をお願いしたい。

#### 【坪田会長】

今ほどの説明及び地域協議会の課題、地域活動支援事業の課題、地域自治区の制度のあり方の課題について質疑を求める。

#### 【水嶋委員】

私も会長会議の様子をテレビで見れていたが、いろいろな仕組みの変更について、賛否は半々くらいで、「よく考えて」という意見もあったと思うが、会長はどういうご意見か。

#### 【坪田会長】

私個人としては、やはり、地域活動支援事業を令和4年度で終了するということが地域にとってどうなのかという思いがある。この12名で、今までたくさんの提案をいただいて、地域の活性化を求めつつ、議論しながら決めてきたが、地域活動支援事業が終了した後、市当局、また、どなたかに依頼した場合に、果たして、期間を置かずに実施いただけるかどうかという不安がある。例えば、谷浜地域づくり協議会が設置している看板だが、看板をつけてほしいとなった時や、道路を直してほしい、公民館を直してほしいと言った時に、すぐに対応していただけるかどうか心配である。

地域協議会を開催し、皆さんの意見を聞きつつも、賛否を取りながら、数十項目の地域からの提案を採択してきた。これが一応、民主的なやり方であり、この一つの地域の活性化を一つでも二つでも進めていく道だろうと思うので、個人的には、このまま地域活動支援事業の性格を継続し、この地域の活性化をもっと図っていただければありがた

いと考えている。

**【佐藤峰生委員】**

地域協議会、地域活動支援事業の課題ということで、セットにして意見を述べさせていただきます。

市の方針としては、新年度で地域活動支援事業を一旦終了して、再来年度からは地域協議会が提案する部分に対し、検討して予算付けをしていく。そういう方向性について、私は大賛成である。なぜなら、地域協議会委員として、いろいろな場面で発言したので、皆さんの耳に残っていると思うが、予算490万円が、谷浜・桑取区に配分されるから、それを使うという考え方、使うために何かを提案するという発想が、問題点だと思う。令和5年度からは、何々をやりたい。それについて、検討していただいて、許可ができれば予算が付くということを協議会で議論するというが、それが本来あるべき姿だと思う。

新年度、地域活動支援事業が最後になるが、今まで、この場で審議して実践された提案内容を持ち寄って最後の大総括として、令和5年度以降に予算付けをして実施すべきものを拾い出す、或いは、今までの事業の中から継続的に実施する必要があるものを見つけ出すなど、そういう形で新しい制度につなげていくというのはどうか。

前回も話したが、備品を購入した事業があるが、それをこれから使っていくにはどうするかという発想である。今の協議会が、令和5年度からどういう関わり方をするかはわからないが、我々も最後の責任ということで、地域を活性化するための新しい考え方、令和5年度に繋がるような地域活動支援事業のまとめ方を私自身はやっていきたいと思うし、皆さんから、いろいろ意見を聞かせていただければと思う。

**【水嶋委員】**

今ほど、佐藤峰生委員が言われたことを私も感じている。今までの補助金の使い方は、言い方は悪いが、「お金がなくなったから、親の財布からごまかして使っているような使い方」だったのではないか。地域の提案事業だから、協議会の中では、反対もそれほどなく、ある程度の事業は通ってきたのではないかと思う。だから、深い審議もなく、佐藤峰生委員が言われるように、提案者もそれほど深い計画や、これが今後に繋がるという考えもなく、「予算があるから、あそこからもらえばいい」というような使われ方をしてきたのではないか。それより、本当に必要な事業に、金額が高くて予算を付けていったほうが今後のためにはいいのではないかと思う。

**【坪田会長】**

その時の提案や審議の内容によるのかと思う。会長会議の時も、中には配分額の半分も使わなかったという区もあり、それは追加募集をせずに残したということであった。当協議会においても、採択をし、配分額の残額がなくなったのは、今年度が初めてだと思う。毎年、二次募集までして余った分は残している。どうしても490万円を使わなくてはならないという発想には至らなかった記憶がある。余ったものは余ったとして、それは全く差し支えない。

**【佐藤寿美子委員】**

私も何年か委員をやっているが、自分で納得していないものが、採択され、これで良いのかと思ったものは何件かある。果たして、それが地域のために良かったのかどうか、いまだにわからない部分もある。

**【齊藤委員】**

もう少し年齢層の若い人から事業提案があっても良いのではないかと感じる。谷浜・桑取区で、昔であれば青年会があったが、今はそれが残っているのか、その辺は認識していない。

それから、予算についてだが、行政は予算があれば、全部使わなければいけないという発想があるが、それを残すというのもありだと思う。ただ、提案の中で、中・長期的な事業が1件もなかったような気がする。極端な言い方をすると、5か年計画でやりたい。ただし、合計で1,000万円ぐらいかかる。そういうものがあっても良いのではないか。若い人もサークルやグループがあれば、いろいろ提案していただきたい。

**【坪田会長】**

今、若い人との話があったが、この地域に谷浜・桑取地域を含めて若い人というと、どうしても消防団の方々が若い人の部類に入ってしまうが、その消防団自体も人員が不足しているということで、令和7年度までに谷浜・桑取地域で一本化することになり、今、徐々に進めている。やはり、消防団の人員がいらないため、一本化して割り振りながら、いくつかに分けて活動する。そのような考え方を持っている。

**【金森副会長】**

令和4年度からは、市が審査を行うという話だが、資料には、基準を設けないと書いてある。資料の質問3のところ、「審査基準は28区でそれぞれ地域事情を備えたものとなっていたが、市が審査を行うことについては、審査基準を統一するのか」という質問に対して、「統一する考えはありません」という回答になっている。審査を行う時に基

準を設けず、その区に合わせた中で、審査するという事なのか。そうすると、それぞれ審査するメンバーの方々の勢力によっては、区ごとに変動が出るのではないかと心配し過ぎかもしれないが、そんなことで大丈夫なのかと思う。基準があればあつたで、また、杓子定規な審査になってしまうような気がするが、この辺が少し引っかかった。市の審査方法について、詳しく決まっているわけではないと思うが、私たちから見ると、疑問符がつくような感じである。

**【中村センター長】**

金森副会長からは、1月18日付けの資料のQ&Aの3番についてご質問いただいた。

区ごとに採択方針を毎年定めているが、市で審査する場合は、令和3年度の採択方針などをベースに審査の過程を鑑みながら行うことになるため、今まで、区ごとに違う部分あつたものを市のほうで一つの基準に戻すことはない、これまでとおりであるという回答である。

**【坪田会長】**

地域協議会の課題、地域活動支援事業の課題、地域自治区制度のあり方の課題、諸々を含めて皆さんの意見を聞かせていただいた。今ほど金森副会長が言われた、1月18日付けの資料だが、地域協議会として地域活動支援事業の審査採択を行う意向の有無について意見を求める。

**【田村委員】**

令和5年度からは、市の事務局が予算付けするが、令和4年度については、暫定的な状況なので従来どおりのやり方を選ぶのか、市に任せるかを選ぶということで良いのか。

**【中村センター長】**

令和4年度、経過措置の事業として地域協議会が審査するのか、市が審査するのかの意向を確認させていただく。令和5年度の部分は、まだ地域独自の予算の骨組みをこれから検討していくが、地域活動支援事業は廃止し、令和5年度から段階的に地域独自の予算に移行していくという形である。

**【坪田会長】**

皆さんの意見を聞き、これからもこういう形で進めるか、市に委ねるかということを決めれば良い。

**【田村委員】**

今年度の場合、募集の際は、何でも提案していただきたいと周知したが、最終的に審

査の時に、この事業は地域活動支援事業に向いていないのではないかという意見もあったが、予算の枠内なので採択した。令和4年度については、従来どおりのやり方で行うと意思表示した上で、募集の際に、対象事業をある程度絞るようにすれば良いのではないか。

#### 【水嶋委員】

どちらかという、市のほうで審査したほうが客観的ではないかと思う。どうしても地域の中では、思いやりというか、せっかく提案しているのに駄目だということも可哀そうだなという気持ちが出てしまい、通してしまうことがあるかと思うので、本当に今後の発展を考えるなら、客観的に地域外の人から審査をしてもらったほうが、あの地域は一生懸命こういう事業を行っていると思われるのではないか。

#### 【佐藤峰生委員】

先ほども話したが、令和4年度で地域活動支援事業は最後であるため、最後の総括という意味で、令和5年度の新しい仕組みに谷浜・桑取区が自信を持って参画できるような仕組みを作るべきである。それが、我々の役割であり、責任だろうと思う。今までの地域活動支援事業が本当に地域活性化に結びついてきたかという観点で見直す。新年度はそういう見方をして、最後の総括をする。そのためにも、新年度は、谷浜・桑取区は地域協議会で審査をさせてもらいたい。資料No.3の最後のページに第3回の地域協議会で出された意見がまとまっているが、「地域の活性化について」に「④地域活動支援事業の活用」という項目がある。これは私が出した意見である。単年度、或いは、狭い範囲の活動を継続的・広範囲の活動にしていく。2つ目は、活動を実施することが目的になっているものについて、活動を別の目的の手段にしていく。3つ目は、活動により地域が変わるかどうか。或いは、住民の意識が変わるかどうか。4つ目は、地域に住んでいる人たちが、ふるさとを誇りに思えるようにしていく。5つ目は、交流人口を増やしていく、事業を実施することによって交流人口が増える。これらの観点で、地域の活性化に結びつけるような地域活動支援事業になるように、ここにいる委員を含めて、いろいろな団体で議論し、令和5年度はその勢いで市の新しい取組に谷浜・桑取区としての提案が出せるようにしていけたらと思う。

#### 【坪田会長】

今後も、地域活動支援事業のような取組を続けていただけたら良いという話で良かったか。令和4年度で終了し、次年度はどういう方向でいくのかは、まだ具体性がないか

らわからなくても良いとは思ふ。ただ、地域を見ると必要性を重んじる部分のほうが強いかという感じがする。確かに、何か事業を行うにあたって、100万円、200万円で済まない部分も事業によってはあるが、地域活動支援事業がなかった時代を思い浮かべると、何かを要望してもその地域に生きてこなかったり、なかなか結び付かなかったりしたものが、490万円という範囲内で、小さな事業かもしれないが、すぐに実施できるという部分が地域活動支援事業の良い点だと感じる。

いずれにしても、水嶋委員、佐藤峰生委員が言ったように、地域感情というものが、どうしても小さい地域なので出てきてしまう。そして、佐藤寿美子委員が言われるように、果たしてそれで良いのかという部分まで、無理やり予算付けしてしまうという部分も出てくる。令和4年度も地域協議会のメンバーは同じなので、それを踏まえながら、議論しつつ、提案の内容等々をより良い方向付けをしていただければありがたいと思っている。結論は、次回改めて協議することとしたい。

次に【協議事項】地域協議会だよりの掲載内容について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

・資料No.3「谷浜・桑取区地域協議会だより」に基づき説明

【坪田会長】

説明に対し質疑を求める。

(「これで良いと思う」との声)

【千田主任】

後で何か気付いたことがあれば、今月中に事務局にご連絡いただきたい。

【坪田会長】

次に【協議事項】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

・資料No.4「話し合いたいテーマに関する意見一覧（第3回地域協議会にて出された意見など）に基づき説明

本日は、前回の協議を踏まえながら、どういう方法で意見交換を進めていけばいいか、意見交換の進め方についてご協議いただきたい。

【坪田会長】

本日は、4名の欠席者がいるため、次回、皆さんのそれぞれご意見をお聞きすることとしたい。



### 【水嶋委員】

2、3日前に、地域福祉活動計画推進委員会という会の関係で回覧の依頼がきたが、どうしているのか。今、地域協議会の中で地域の課題を話していくという話があったが、内容を見ると、この委員会も地域の課題を話すことになっている。地域協議会と比べてこちらは24名もいるが、どうなのか。

### 【中村センター長】

ここ2回程、同じような議題で審議している会があると発言があったため、事務局で上越市社会福祉協議会にお尋ねしてきた。次回に紹介する予定だったが、水嶋委員から質問があったので、お話をさせていただく。

### 【坪田会長】

私もその委員会に委員として参加している。何回か話しているが、地域にはいろいろな団体がある。民生委員会であったり、福祉協議会であったり、谷浜・桑取地域振興協議会もあるが、皆が目指すものは一つである。この委員会も第1回しか開いていないが、開いた際に、まとめきれないほど意見がたくさん出た。学校の先生も委員の中に入っている。中学校にしても小学校にしても地域活動について十分やっていることだ、今更なんでやるのだというご意見もいただいている。どこも同じようなことを目的としているため、本当はどこかに一本化すれば良いのではないかという話も出ている。

しかし、それぞれ母体を持っているため、それぞれの人がこれを行いたい、ということになり、このような形になっているのだと思っている。単体で行うことにより、一つ一つ個別に細かい部分に気付いていける部分があることは事実である。総論だけの場合もあるし、この委員会や民生委員にしても、地域振興協議会にしても、個々にあたってある場合もある。だから、目的は一緒みたいだが、団体により、住民に対しての関わり方が違うのではないか。持論だがそのように思う。良い悪いは別にして、いずれにしても、この地域を何とか盛り上げ、より良いものにし、活性化しよう、悪い方向には絶対進まないようにしているわけなので、なかなか難しいとは思いますが、それぞれの思いで、良い方向づけができればいいのかなと思う。

### 【中村センター長】

推進委員会は、団体の代表という形で24人が参加している。24人の委員で、どうしているのかというと、地域を元気にするために、地域で考え、プランをまとめることを想定されているようである。推進委員会とすれば、プランをまとめながら、地

域を活性化し、元気にしていくという点は、地域協議会と同じだということを事務局同士で話してきた。現状としては、情報交流をしながら、場合によって説明に来ていただくことも可能だということなので、緩やかな連携という方向で進めていければと考えている。

**【坪田会長】**

第1回目、24人が集まった中で、先ほど申したように、残念ながら、意見がまとめようがなくなってしまった。それで、今求めているのは、谷浜・桑取地域に89の団体がある。その方々に、具体的なアンケートを取るよう進めている。

**【水嶋委員】**

この推進委員会のほうが、はるかに先を行っているのに、私たちが後からいろいろな団体に意見などを求めても、また同じことをしていると思われるのではないかと。それであれば、一本化したほうが本当は良いのではないかと。

私たちはまだ入口で、もたもたしているのにアンケートまで取られるというのだから、そちらで検討されたほうが良いのではないかとと思う。

**【坪田会長】**

このような団体でも、入り込めない部分があるであろうかと思う。相対的に考えて地域として、良い方向へ向かって行くことが一つの考え方ではないか。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

**【千田主任】**

次回協議会は、2月17日（木）午後6時半から開催したい。協議内容は、地域活動支援事業の審査主体及び採択方針についての協議。それから、自主的審議事項の協議を考えている。

また、地域活動支援事業の募集説明会を3月19日（土）午後1時半から開催したいと考えている。去年は、事例報告は行わず、意見交換に時間をかけたようだが、今回の内容については、次回協議会の時に相談させていただきたい。

**【坪田会長】**

日程調整の結果、事務局案どおりとする。地域活動支援事業の募集説明会に関して意見を求めるがなし。

**【中村センター長】**

事務局から、前回の協議会で田村委員からご質問あった項目について報告させていた

だく。

谷浜・桑取区の洪水ハザードマップへの桑取川の未掲載について、担当課の河川海岸砂防課に確認した。まず、洪水ハザードマップについては、令和3年8月末に市内全戸に配布された。このマップは、水防法に基づき、国及び県が公表した河川ごとの洪水浸水想定区域図をもとに作成している。現在は、市内にある25個の河川について、洪水浸水想定区域図が公表されており、ハザードマップに掲載されているということだった。掲載されていない桑取川は、洪水浸水想定区域図が公表されていないため、市では河川管理者である県に対して、公表の要望を進めているとのことである。

#### 【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

#### 9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp 1

#### 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。